

制作は、私にとって、一番主体的になれるもの、または、ならなければならないものだと思っている。

主体的といっても、誰かの助言なしには、なしえないことがほとんどだと思うと同時に、素直に周りの意見をきくことが課題である。

制作では「自分なりの何か」これを表現できるように努めている。しかし、ときどき、本当にこのままでいいのか、このまま何も変化のないまま日々を過ごしてしまいそうで、不安になる。何を描きたいのかわからなく、進まない時もある。そんな思いを昇華させるためにも、今後は公募展にどんどん挑戦していこうと考えている。その中で、もっと自分のことや社会のことを考えていきたいと思う。制作は、自分探し・自分を構成する手段の一つだと感じている。



「湿幻」F100 2012年
第62回西宮市展 若手奨励賞

「自分って何かなあ？」という疑問・・・自己分析が足りないと思っている今日この頃。もっと、好奇心旺盛になり、そして、興味を持っていることを追及したいと思う。

こだわりや「自分なり」を意識して、自分の考えを持てるようになりたい。そのためにも、自分の好きなことを片っ端から取り組んでいこうと思う。

「枯れないようにすることも大事だし、枯れることも必要・・・枯れることは、次の新しい芽生えのために。」

山本雅子^{さん}

学校教育学部 芸術系コース（美術）4年

これは最近気に入っている言葉。
先輩と話しているときに出てきた言葉。
人と話すと、いろんなことに気付けるんだなあと感じた。



「宿る」S50 2014年 第39回こうべ市民展 入選



「ひらく」F100 2014年
第60回三木市展 入選



「滲み出るもの」F60 2013年
第40回小野市美術展 市長賞